

バーチャルリアリティ空間におけるソーシャルディスタンス

Social distance in a virtual reality space

吉田 弘司・長岡 彩香・吉田 りな

(比治山大学 現代文化学部)

Hiroshi YOSHIDA, Ayaka NAGAOKA, & Rina YOSHIDA

social distance, personal space, virtual reality

社会的距離, パーソナルスペース, 仮想現実

近年、ヒト型ロボットが現れ始めているが、ロボットが人間と同様の見た目をもつとき、我々はそれを“モノ”として扱うのだろうか、それとも“ヒト”として扱うのだろうか。本研究では、CGで作成したソフトウェアロボットをバーチャルリアリティ（VR）空間に提示し、それに対するパーソナルスペース（PS）を測定する実験を行った。接近対象には、モノである彫像、立っているだけの女性型ロボット（人形）、実在するヒトが腕と頭部を操作しているロボット（分身）の3条件を設け、前後それぞれの方向から5試行ずつの接近実験を行い、もっとも接近したときの距離を測定した（ $S_s = 23$ ）。実験の結果、PSの大きさは彫像<人形<分身の順に広がること、および、彫像に対するPSは前後で違いがないが、ロボットに対しては前側で広く、とくに分身条件で顕著になることがわかった。この結果から、ヒトでない対象に対しても、我々はヒトに対するのと同様のPSをもつことがわかった。また、VRを使った遠隔会議のように、離れた場所にいるヒト同士がVR空間内で別人となって出会う際にも我々は社会的距離（social distance）を保とうとする傾向にあることがわかった。